

一 糖尿病看護認定看護師の役割と活動 一

私は、糖尿病看護認定看護師の資格を取得して以降、病棟や外来受診相談の担当を経験し、今年の3月から総合外来センター3階の看護主任として勤務しています。主任の役割と認定看護師の役割とを明確に分けることは難しいのですが、糖尿病患者に提供している看護の一例として高・低血糖患者の対応を紹介します。

総合外来センターでは、患者安全の視点から採血室で高・低血糖が判明すると、3階ケアルームの電子カルテよりアラートの警報が発生し、注意喚起を行う仕組みが整えられています。該当患者を総合外来センター内でお探しし、体調確認や対応フローに基づいた支援を行うことで意識消失等の危険を回避する役割を果たします。さらに、糖尿病看護の視点からもう一步踏み込んで患者に関わっています。

本来の高・低血糖対応は、患者自身が行うセルフケア行動の一つであり、患者は過去の経験を基にした対応方法を持っています。対応フローの基本は守りつつ、普段行っている患者自身の対応方法・その根拠を大切にしたいと考えています。高・低血糖に至ったと思われる要因の情報収集や今後の行動予定等を確認し、血糖の変動を予測した上で、患者の対応方法が適切かどうかを判断し、必要があればアドバイスを行います。10分未満の瞬間的な関わりにはなりますが、看護師と一緒に検討した経験を次に生かしてほしいと意図的に関わるようにしています。これらの関わりは、糖尿病看護認定看護師が持つコアな知識・技術の一つである「血糖パターンマネジメント」の考え方に基きます。この関わりの場面で、患者の糖尿病に対する日々の困りごと、知っておいた方がよい知識の不足、効果的でない対応方法等に気づくことがあります。このような患者は、医師との情報共有だけでなく、糖尿病看護専門外来（私以外の常勤の糖尿病看護認定看護師2名が運営）へつなぐようにしています。また、一連の看護過程をスタッフと共有し部署全体で看護の質が向上するように取り組んでいます。



当院の糖尿病看護認定看護師

今後の活動の抱負は、糖尿病看護の充実にに向けた仕組み作りやスタッフ育成への取り組みです。特に、今年度は、外来でのインスリンや血糖測定器の導入指導がタイムリーにできるよう整備したいと考えています。将来的には、導入指導だけでなく、インスリン注射に慣れた頃に生じる困り事への対応や血糖測定結果を、セルフケアに生かせるようにアドバイスできる看護外来を行いたいという夢を持っています。周りのスタッフや多職種の皆さんのお力を借りながら患者さんのために貢献していきたいです。